

第3章 防災啓発・教育活動

1. 2024年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 黄 璐

1. 活動内容と年間スケジュール

あいぼう会は、2024年度も「企業防災力と地域防災力の向上」を目標にして、月に1回の例会を中心に活動を行った。防災セミナーと講演会、講習会、見学会を柱として積極的に活動し、災害に関する知識を習得、会員相互の交流、切磋琢磨をはかった。運営委員会および運営協議会を開催し、会の運営を審議しながら活動した。2024年度の活動スケジュールを表1に示す。

表1 2024年度あいぼう会の活動

日期	総会・運営協議会	運営委員会	BCP塾	防災セミナー・講演会	講習会	見学会	懇親会	備考
4月15日	○			○			○	
5月20日		○	○	○				
6月17日		○	○	○				
7月22日				○特別編			○	
8月26日		○	○	○			○	
9月30日		○	全体会	○				
11月1日						○		
11月18日		○	○	○				
12月16日					○		○	
1月20日		○	○	○				
2月17日	○		最終報告	○			○	
3月17日		○	○	○				

2. 総会

日時：2024年4月15日（月）13:00～16:30

➤ 第1部：2024年度総会

総会では、会長の横田崇氏と、愛知県防災安全局防災危機管理課長の則武聖子氏の挨拶に続き、2023年度活動報告、2024年度活動方針・計画、2024年度活動予定の説明が行われた。活動方針・計画では、BCP塾各グループの班長が活動内容について説明した。

➤ 第2部：特別講演会

特別講演会では、愛知県防災安全局（防災部長）の岡田晴道氏を講師に迎えて、「愛知県の主要防災施策について」の講演を聴講した。

3. 講演会

➤ 2024年度 第1回講演会：2024年4月15日（月）14：50～16：40

講 師：岡田晴道 氏（愛知県防災安全局 防災部長）

テーマ：愛知県の主要防災施策について

➤ 2024年度 第2回講演会：2025年2月17日（月）15：00～16：30

講 師：熊谷力也 氏（前 株式会社LIXIL トイレ空間事業）

テーマ：LIXILが考える災害時のトイレ課題

4. 講習会

➤ 2024年度 講習会：2024年12月16日（月）13：00～16：30

場 所：愛知工業大学本山キャンパス

講 師：長尾佳世子 氏（日本赤十字豊田看護大学 赤十字・災害看護学領域 講師）

テーマ：災害関連死を予防するために！—今（平時）、知っておきたい知識と応急処置の技—



写真1 講習の様子

5. 見学会

➤ 2024年度 見学会（通算 第32回）：2024年11月1日（金）13：00～16：00

場 所：トヨタ車体株式会社 本社・富士松工場

目 的：トヨタ車体のBCP/BCM助かる助けるための一人ひとりの意識改革を課題として、平日の減災活動、発災時の初動活動、そして復旧活動の内容を知るため



写真2 集合の様子

6. 防災セミナー

2024年度には、計8回の防災セミナーを開催した。各回の詳細は以下の通りである。

- **2024年度第1回（通算 第92回）**：2024年5月20日（月）
 講師：伊野恵理 氏（中部経済産業局）
 テーマ：能登半島地震における中部経済産業局の対応について
- **2024年度第2回（通算 第93回）**：2024年6月17日（月）
 講師：黄 璐 氏（愛知工業大学 地域防災研究センターポスドク研究員）
 テーマ：中国の地域コミュニティの防災について
- **2024年度第3回特別編（通算 第94回）**：2024年7月22日（月）14：30～16：30
 2024年度地域防災研究センター客員教授になられた山岡耕春氏に防災セミナーの特別編として、講演いただいた。
 講師：山岡耕春 氏（名古屋大学名誉教授 愛知工業大学地域防災研究センター客員教授）
 テーマ：火山災害と防災
- **2024年度第4回（通算 第95回）**：2024年8月26日（月）
 講師：入江さやか 氏（松本大学）
 テーマ：防災情報の現状と課題
- **2024年度第5回（通算 第96回）**：2024年9月30日（月）
 講師：早川澄男 氏（あいち防災リーダー会）
 テーマ：地域防災活動報告について
- **2024年度第6回（通算 第97回）**：2024年11月18日（月）
 講師：安藤誠一 氏（東邦ガスネットワーク防災管理課）、山田貴文 氏（愛知県 防災安全局災害対策課）、尾形 洋 氏（豊田市役所防災対策課）
 テーマ：東邦ガスグループの災害対策について・能登半島地震における対応
- **2024年度第7回（通算 第98回）**：2025年1月20日（月）
 講師：西山 氏（中日ビル総括マネージャー）
 テーマ：中日ビル内の防災減災施策および施設見学

- **2024年度第8回（通算 第99回）**：2025年3月17日（月）
 講師：横田 崇 氏（愛知工業大学地域防災研究センター長）
 テーマ：家具固定キャンペーン結果

7. BCP塾

あいほう会では、例会の一環として「BCP塾」と称したワークショップを実施している。これは、会員企業がBCP（事業継続計画）を策定し、それを維持・更新することを目的としている。2024年度には、計7回のBCP塾を開催した。各グループの活動計画は表2にまとめている。

表2 2024年度BCP塾の活動スケジュール

			グループ1（倉橋）： タイムラインづくり	グループ2（落合）： 防災クイズづくり
5	20	第1回	今年度の実施内容共有	今年度の実施内容の確認
6	17	第2回	情報交換	クイズアプリ機能の検討
8	26	臨時セミナー	臨時セミナー 家具固定の冊子の説明	臨時セミナー 家具固定の冊子の説明
9	30	第3回	情報交換	クイズ問題のブラッシュアップ
中間報告会				
11	18	第4回	タイムライン発表・議論	クイズ内容、アプリ仕様の確認
1	20	第5回	タイムライン発表・議論	クイズアプリ（β版）機能の確認
2	17	—	BCP 塾最終報告会	
3	17	第6回	次年度に向けて	次年度に向けて

8. 運営委員会

2024年度の運営委員会は、対面とオンラインの両方で開催した。今年度には7月の臨時特別講演会と11月に1回の見学会を実施したため、運営委員会は昨年度と同様に7回行った。

- **2024年度第1回（通算 第144回）**：2024年5月20日（月）
- **2024年度第2回（通算 第145回）**：2024年6月17日（月）
- **2024年度第3回（通算 第146回）**：2024年8月26日（月）
- **2024年度第4回（通算 第147回）**：2024年9月30日（月）
- **2024年度第5回（通算 第148回）**：2024年11月18日（月）
- **2024年度第6回（通算 第149回）**：2025年1月20日（月）
- **2024年度第7回（通算 第150回）**：2025年3月17日（月）

9. 運営協議会

2024年度運営委員会（通算第15回）：2025年2月17日（月）

運営協議会にて、2024年度活動報告および2025年度活動方針・計画の発表を行った。また、活動に対する外部評価を以下の企業・団体の担当者（ご所属のみ、50音順）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】

東邦ガスネットワーク株式会社、一般社団法人中部経済連合会、中部電力株式会社（評価なし）、名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】

大府市役所、幸田町役場、豊田市役所、愛知県防災安全局防災部災害対策課

10. 新丸山ダム本体建設第1期工事（岐阜県）の訪問

岐阜県木曽川にある新丸山ダムの訪問(防災フィールドワーク)として臨時見学会を実施した。新丸山ダムは、丸山ダムで行われている洪水調節と発電に、新たな下流の河川環境保全を加えた3つの目的で、より安全で快適な暮らしを支える目的を持った整備工事である。

- 日 時：2024年6月25日（火）13：00～16：30
- 参加者：社会人防災マイスター履修生メンバー、あいほう会会員



写真3 新丸山ダム工事現場見学の様子

2. 2024年度 あいぼう会BCP塾の取り組み

倉橋奨・落合鋭充・黄 璐

1. はじめに

南海トラフ沿いで予想される大規模地震に備え、東海地方の企業は被害を最小限に抑え、迅速に事業を再開できる構築が求められている。こうした問題意識のなかで、あいぼう会では企業のBCP（業務継続計画）策定と従業員のLCP（生活継続計画）に取り組むことが重要課題とされてきた。現時点ではあいぼう会の会員企業においては、BCP策定済みの企業であっても適宜見直しを行い、発動時に早期の復旧・操業再開に至ることができるよう体制を整えていく必要がある。

以上の状況を踏まえて、あいぼう会では企業防災力の向上を目指す取り組みの中核として、2018年度からBCP塾を設置した。2018年から2024年度にかけての7年間、会員企業はBCPの策定およびその維持・更新を継続的に行うことに注力してきた。以下では、2024年度に行われた活動について振り返る。

2. 2024年度の活動方針とスケジュール

2024年度のBCP塾は、計7回開催された。塾を2グループに分け、グループ1ではタイムラインづくりを、グループ2では防災クイズづくりを行った。各グループの活動スケジュールを表1に示す。9月は中間発表会「BCP塾中間報告」を行った。なお、2024年度は、2023年度と同様に、対面参加とオンライン参加を並行しての開催となった。

表1 2024年度BCP塾の活動スケジュール

			グループ1（倉橋）： タイムラインづくり	グループ2（落合）： 防災クイズづくり
5	20	第1回	今年度の実施内容共有	今年度の実施内容の確認
6	17	第2回	情報交換	クイズアプリ機能の検討
8	26	臨時セミナー	臨時セミナー 家具固定の冊子の説明	臨時セミナー 家具固定の冊子の説明
9	30	第3回	情報交換	クイズ問題のブラッシュアップ
中間報告会				
11	18	第4回	タイムライン発表・議論	クイズ内容、アプリ仕様の確認
1	20	第5回	タイムライン発表・議論	クイズアプリ（β版）機能の確認
2	17	—	BCP塾最終報告会	
3	17	第6回	次年度に向けて	次年度に向けて

3. 2024年度の活動報告

グループ1 班長：倉橋奨

グループ1では、タイムラインづくりと題して、スーパー伊勢湾台風（東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会：TNT）をシナリオとした風水害（主に台風）における進行型タイムライン（防災行動計画）の策定に向

けて活動を行った。議論の中では、各企業・団体が抱えている問題点を抽出・情報共有し、他企業・団体がどのような対策をしているかなどの議論や情報共有がなされた。また、9月のBCP塾では、大型台風で中部地方直撃予想から、大幅に西側に反れ、結果的に5日後に勢力が衰えた状態で中部地方を通過した台風10号（サンサン）における、各社の対応について情報共有・議論を行い、旬な話題での議論も行った。本検討で実施した各社のタイムラインについては、あいほう会内のみ共有できるようにする予定である。

グループ2 班長：落合鋭充（㈱エーアイシステムサービス）

グループ2では、昨年度に引き続き、防災クイズの作成を行った。防災クイズについては、以前のあいほう会で作成した防災力検定の問題をベースとしており、防災力検定の問題は作成時期から時間がたっているため、昨年度は初級編のブラッシュアップを実施したが、今年度は中級・上級編の問題の精査およびブラッシュアップを行い、防災クイズアプリへの導入を実施した。

次年度以降では、作成した防災クイズアプリを実際に利用していき、クイズやアプリの評価を実施する予定である。

3. 第16回社会人防災マイスター養成講座

講座責任者 横田崇

1. 講座概要

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。

愛知工業大学を中心として、名古屋工業大学、大同大学の教員が参加し講座を催し、本年度で15年目となる（平成21年10月開講）。

本講座は、1年間の課程として、年間7科目を受講することとしている。第16回講義時間合計は97時間45分の授業を開講した。学校教育法に基づき60時間以上の授業を受講した履修生に文科省より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

2. 第16回カリキュラム

第16回（令和5年秋期入学）の入学者に対する講義科目と担当教員を表1に示す。

表1 科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
秋期	防災学概論	横田崇（愛工大）
	建築防災論	武田美恵（愛工大）、野澤英希（愛工大）
	防災リテラシ	倉橋奨（愛工大）、落合鋭充（㈱エーアイシステムサービス）
春期	企業防災論	渡辺研司（名工大）
	地域防災論	小池則満（愛工大）、鷺見哲也（大同大）、岡田公夫（岡田縮災一級建築士事務所・あいち防災リーダー会三河ブロック代表）、早川澄男（あいち防災リーダー会）
全期	防災フィールドワーク	落合鋭充（㈱エーアイシステムサービス）、長尾佳世子（豊田看護大）
	特別研究	横田崇（愛工大）
講座責任者		横田崇（愛工大）

現地現物による防災に関する学習を行う防災フィールドワークでは、下記の施設を見学した。（表2）

表2 第16回防災フィールドワーク見学先一覧

日付	行先	目的・内容
2023年11月21日	名古屋港管理組合	名古屋港管理組合の防災計画（地震・津波対策）と地震時の対応や対策を学習する。
2023年12月19日	愛知県庁	県庁レトロ免震見学及び災害時における愛知県の対応を学び、今後の防災・減災の取組みに活かす。
2024年5月21日	中部地方整備局DXセンター	支援活動をしている隊員から災害対策車両を使った復旧支援やデジタル機器等について話を伺う。操作体験をする。
2024年6月25日	新丸山ダム工事事務所 新丸山ダム骨材製造現場他	5月21日DXセンターで映像で見学したダム工事現場の現地に出向き新旧ダムの工事を見学する。

※愛知県庁見学は建築防災論の講義で行っていたが、第15回からは防災フィールドワークも合同で行うことになった

3. 第16回履修生

履修生には履修科目の他に特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に対応している。令和5年10月入学の秋期履修生は1年間の特別研究の成果を、令和6年7月に、先生方、履修生、履修生OBの前で発表した。

表3 第16回（令和5年秋期入学）履修生の特別研究テーマ

No	学籍番号	名前	特別研究テーマ
1	G23565	清水 祥二	自社と子会社の防災・減災足元固め
2	G23566	鈴木 一幸	身近な防災倉庫や避難所がその時役に立つのか？
3	G23567	鷹橋 康史	貸主の使用収益義務の履行と被用者への安全配慮義務について
4	G23568	永田 豊	防災管理点検資格者 その責務からの考察
5	G23569	中村 彩子	西尾市における新たな防災活動の起ち上げ

4. 第17回（令和6年秋期）入学生

令和6年10月1日に開講式を自由ヶ丘キャンパスで開催した。受講生は製造業、サービス業などに携わる13名である。令和7年1月で半期が終了し、令和7年7月に卒業予定である。

表4 累計履修生数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
入学年度	H21 秋	H22 春	H22 秋	H23 秋	H24 秋	H25 秋	H26 秋	H27 秋	H28 秋	H29 秋	H30 秋	R 1 秋	R 2 秋	R 3 秋	R 4 秋	R 5 秋	R 6 秋
入学数	10	10	9	10	9	9	8	7	8	7	6	6	7	10	5	7	13



写真1 第16回修了式



写真2 現地学習の様子

5. 令和6年度 修了生研究発表会（OB発表会）

本講座の履修期間は1年間と短期ではあるが、修了生の多くは、講座終了後も、企業や地域の防災力の強化に継続的に取り組んでいる。このため、地域防災研究センターの活動として、2018年から、修了生の防災活動や調査研究について意見交換をするための「防災マイスターOBゼミ」（以下、「OBゼミ」と言う。）を開催してきた。

そして、OBゼミの成果を発表する場として、毎年「修了生研究発表会（OB発表会）」を開催しているが、2024年は地域防災研究センター20周年シンポジウムでの活動報告にて「令和6年度 社会人防災マイスター養成講座 修了生研究発表会」に代えて1名が発表をした。

来年度以降も継続的に開催する予定である。

表5 地域防災研究センター20周年シンポジウム（OB発表）の発表テーマ

No	履修回	名前	発表テーマ
1	第15回	池上 健一	ろう者、難聴者の方への災害対応に関する問題点調査

4. 緊急地震速報を活用した「第19回防災訓練」の実施と職員の図上訓練の実施

地域防災研究センター長 横田崇

本学は緊急地震速報を活用した防災訓練を実施している。訓練は年に一度、秋季に実施されている。19回目となる令和6年度は、防災訓練については、学生・教職員のサッカー場への避難行動を実施した。

一方、学園職員等の訓練については、緊急地震速報発令時等の危機発生時に冷静な行動をとり、被害を最小限に抑え、学生、教職員、厚生施設関係者及び大学内に滞在する者の安全を確保、二次災害を防止することを目的とし、火災発生時の初期消火訓練を行った。大学と学園が同じ本部棟2階に本部機能を設置し、学園の対策本部と円滑な連携を行うことを目標とした。

加えて、令和5年度から導入している「安否確認メールサービス」について、安否確認回答訓練を実施した。訓練の概要は下記のとおり。

(1) 避難訓練

実施日時：令和6年11月21日（木）11時40分～12時40分

想定地震：東海・東南海連動地震（M8.5、震央距離140km）

猶予時間：40秒

予想震度：6弱

緊急放送：緊急地震速報を受信すると自動的に放送設備が起動し、サイレンが2度鳴り、続いて「地震が来ます」の放送が繰り返される。

退避行動：学生は机の下に身を隠す、実験機械から退避する等の行動をとる（あいちシェイクアウト訓練に参加）

避難行動：センター長がマイクで「揺れが収まりました」と放送し、避難広場（八草キャンパスは、サッカー場）へ避難が開始される。

○参加者：大学（八草） 学生2,471名、教職員220名
 大学（自由ヶ丘） 学生・教職員・学外者206名
 専門学校 学生53名、教職員15名
 高校 生徒1,448名
 中学 生徒578名



写真1 サッカー場で点呼の様子



写真2 大学と学園合同本部の様子



写真3 負傷者搬送訓練の様子



写真4 消火訓練の様子

(2) 図上訓練

名古屋電気学園対策本部と愛知工業大学対策本部合同の図上訓練を実施した。

実施日時：令和6年12月5日（木）15：00～16：00

場 所：（対策本部）本部棟2階会議室

（初期消火班、救出救護班、避難誘導班）班長：AITプラザ3階会議室

班員：AITプラザ3階多目的室

(ウ) 内容

内 容：対策本部員及び各班長（初期消火班、救出救護班、避難誘導班）、少数の班員が集まり、図上シミュレーション訓練を実施

シナリオ：東海・東南海連動地震の避難訓練シナリオを基にした状況付与型訓練

参 加 者：職員18名

スケジュール：

（15：00～15：05）図上訓練概要説明

（15：05～15：40）図上シミュレーション訓練

（15：40～16：00）意見交換会@AITプラザ3階@Zoom

アンケート（終了後）

（３）訓練の狙いと結果等

愛知工業大学の八草キャンパスには、設置校も総括する名古屋電機学園の対策本部と、愛知工業大学の対策本部がある。これら本部の本部長を始め多くの方が、両本部で兼任されており、火災の発生場所や被災状況などは、即座に共有される必要がある。このため、2021年度に、両本部を同一の会議室に設置した図上訓練により、両本部を同一の場所に設置することの有効性を確認した。そして、2022年度から、名古屋電気学園の対策本部と、愛知工業大学の対策本部を、八草キャンパス本部棟の2階会議室に設置することとした。

訓練は、地震発生を想定した全学生を対象として、サッカースタジアムへの避難訓練を実施している。この訓練とは別に、愛知工業大学の職員を対象として図上訓練を実施し、各自の役割の確認や課題の抽出等を行っている。来年度においては、避難した後の建物の使用可否の判定の仕方等についても、図上訓練で有効性等の確認を行う予定である。

5. 学校防災シンポジウム2024

明日から実践！ 保育施設における防災の取り組み

文責：小池則満

森田匡俊・服部亜由未・橋本操・落合鋭充

学校防災に関する様々な活動について発表・紹介し、今後のあり方について考えることを目的としたシンポジウムを2016年より毎年開催している。第9回となる2024年は、「明日から実践！ 保育施設における防災の取り組み」をメインテーマとした。

岐阜聖徳学園大学の主催、岐阜聖徳学園大学附属幼稚園、保育実践を語る会「土曜の会」の共催、愛知工業大学、愛知県立大学、岐阜大学、株式会社エーアイシステムサービスの協力として実施した。

開催日時：2024年12月21日（土）13：30～16：00

場 所：岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

総合司会：太田帆南

（岐阜聖徳学園大学教育学部 4年生）

参加人数：43名



◆プログラム

開会挨拶：柏木良明（岐阜聖徳学園大学 副学長）

中川浩美（岐阜聖徳学園大学附属幼稚園 園長）

趣旨説明：西川正晃（岐阜聖徳学園大学 教育学部 保育専修長）

【第1部】

「保育施設の自然災害に対するリスクコミュニケーション」

亀山秀郎（認定こども園七松幼稚園 園長）

【第2部】

「保育施設における防災と初等教育に繋がる取り組み」

閉会の挨拶：小池則満（愛知工業大学 教授）

◆概要

ぼうさい甲子園「フロンティア賞」を受賞するなど、先進的な防災の取り組みが高く評価されている兵庫県尼崎市の「認定こども園七松幼稚園」の亀山秀郎園長先生を講師にお招きした。

第1部では「保育施設の自然災害に対するリスクコミュニケーション」と題して亀山先生からご講演いただいた。第2部「保育施設における防災と初等教育に繋がる取り組み」では、岐阜聖徳学園大学附属幼稚園の園内をグループで回りながら、危ないところと安全なところを探し、危ないと感じた部分はどうのようになると良いかなどを考えた。さらに幼稚園の平面図に付箋紙で気が付いたことをつけていくなどのワークショップを行った。そ

のコーディネートについても亀山先生にいただいた（写真1、2）。保育士のご参加も多かったことから、現場での経験をふまえた活発な意見交換ができた。あわせて、地域防災に関わる方々や大学生等との交流の場ともなった。

事後のアンケート結果を見ても、自身の園で実践したいという声が多く、大変満足のいく、有意義な学びの多いシンポジウムであったといえる。

【参加者からの感想（抜粋）】

- ・大変勉強になりました。明日から実践していきたいと思いました。
- ・防災に関して様々な方と意見交換ができた。
- ・園での防災について改めて考える機会になりました。今日学んだことを実践していきたいです。
- ・学び得る部分、新たな視点を多く得ることができました。
- ・園での活動など詳しく分かりやすく伝えていただきありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。子どもの安全、安心を守り、大切な命を守るために防災に向けての取り組みを深めていきたいと思います。
- ・亀山先生の講演、WS、園内見学どれも素晴らしかったです。



写真1 ご講演いただいた亀山先生



写真2 ワークショップの様子

当日、講演をいただいた亀山先生、会場となった岐阜聖徳学園大学附属幼稚園の皆さん、岐阜聖徳学園大学の森田ゼミ学生をはじめ、運営・参加いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

6. あいちシェイクアウト訓練

横田崇・倉橋奨・落合鋭充

1. 概要

あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災会議が主唱し、愛知県が主催する防災訓練である。訓練の内容は、地震発生時に各自が直ちに身の安全を確保する安全行動として、「1. しせいをひくく、2. あたまをまもり、3. じっとする」を1分間実施することである。令和6年度は5月1日に記者発表を行い、同日から参加者募集と投稿作品(シェイクアウト訓練を実施した写真と感想)の募集を開始した。今年度は8月31日まで一旦集計を行ったが、登録については、令和7年3月31日まで可能とした。ウェブサイト等を通じた参加表明(登録)者数は1,238,520人(前年比103%)で初めて100万人を超えた。また、参加表明(登録)者数は1,238,520人(前年比103%)となり2年続けて100万人を超えた。なお、登録件数については1039件(前年比74%)で昨年度より少ない結果となった。

当センターは、愛知県からの依頼により、あいぼう会、株式会社エーアイシステムサービスとともに「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」の一員として、訓練の実施に協力した。昨年度に引き続き、ウェブサイトの作成と運営、ポスター・リーフレットの作成について協力した。以下、愛知県とともにに行った令和6年度の取り組みについて報告する。

あいちシェイクアウト訓練
9月1日(防災の日)
正午の時報を合図に1分間

しせいをひくく 1
あたまをまもり 2
じっとする 3

訓練の実施はいつでもOK!
(学校、企業、地域の防災訓練の日や11月5日の津波防災の日など)
※9月1日正午には、Yahoo!防災速報アプリでも訓練の合図が通知します。
詳細は下記URLをご覧ください。

皆様からの参加登録をお待ちしています!
<https://aichi0901.pref.aichi.jp/>

皆様からの「シェイクアウト訓練」の写真と感想もお待ちしております!

登録受付は8月31日まで

あいちシェイクアウト訓練実行委員会
主催：愛知県
協力：愛知工業大学(地域防災研究センター)、あいぼう会、(株)エーアイシステムサービス、シェイクアウト協議会

詳しくは あいちシェイクアウト
検索

あいちシェイクアウト訓練に参加するには?

シェイクアウト訓練は、個人や家庭はもちろん、会社や学校、地域、グループなど、誰でも気軽に行うことができます。

STEP 1 日時を決める
訓練の実施日はいつでもOK!
防災訓練日など実施予定の日程を登録してください!

STEP 2 場所を決める
WEBまたはFAX

STEP 3 参加登録
WEBまたはFAX

ご参加いただける方は、下記ホームページまたはFAXから参加登録をしてください。

WEBからお申し込み URL: <https://aichi0901.pref.aichi.jp/>
ホームページにアクセスし、参加登録のページにて必要事項をご入力ください。

FAXからお申し込み FAX: 052-954-6911
参加登録の受付は 8月31日まで

↓に必要事項をご記入の上、上記FAX番号までにお送りください。

個人の方	法人・団体の方
イニシャル又はニックネーム	団体名
フリガナ	フリガナ
連絡先(必須)	連絡先(必須)
☐ 個人・家族 ☐ グループ(NPO・自主防災組織・自治会など) ☐ 学校(幼稚園・保育園等含む) ☐ 企業・事業所 ☐ 行政 ☐ その他()	☐ 個人・家族 ☐ グループ(知人・友人・知人など) ☐ グループ(NPO・自主防災組織・自治会など) ☐ 学校(幼稚園・保育園等含む) ☐ 企業・事業所 ☐ 行政 ☐ その他()

訓練実施日(独自の指定日でもOKです) 及び参加人数又は参加予定人数(必須)

☐9月1日()人 ☐9月5日()人 ☐9月以外の日()人
 (防災の日) (津波防災の日) (月) + 月日を記入

参加者としてイニシャル又はニックネーム、団体名および参加人数を、ホームページ上に掲載してもよろしいですか。(必須)

☐はい(掲載を希望する) ☐いいえ(掲載を希望しない)

※ご登録いただいた情報は、あいちシェイクアウト訓練の参加状況の把握以外に使用することはありません。

STEP 4 9/1正午の時報などを合図にシェイクアウト!
(しせいをひくく、あたまをまもり、じっとしたまま1分間)
訓練は、周りの安全をよく確認してから実施しましょう

学校や職場の机など、身を守るもの活用しよう!

揺れで机が動かないように机の足をもつんだぞ

STEP 5 訓練をふりかえる
シェイクアウト訓練を実施した結果をふりかえり、身近な防災対策について話し合いましょう。

皆様からの「シェイクアウト訓練」を実施した写真と感想を大募集します!
詳しくはホームページ「あいちシェイクアウト」で検索

愛知県防災安全委員会 Twitter
あいちシェイクアウトで訓練についてつぶやいてみよう!

あいちシェイクアウトHP
会員登録をはじめ、地震への備えができるかシェイクアウトからチェックしてみよう!
ふりかえりシートなどの様式はこちらからダウンロードできます。

事務局 愛知県防災安全局防災対策支援グループ 電話 052-954-4140

図1 令和6年度「あいちシェイクアウト訓練」リーフレット

2. 実施スケジュールおよび参加者の内訳

訓練の実施は5月1日に愛知県知事より報道発表され、同時に参加登録が開始された。参加登録期間は訓練前日の8月31日までの約4か月間である。この間に1,238,520人（1,039件）がウェブページ等を介して参加登録を表明した。前年度（1,202,365人、1,399件）と比較すると、登録者数は36,155人の増加したものの、登録件数については、360件の減少となった。また、目標としていた200万人は突破することができなかった。訓練は、原則として9月1日正午を開始の合図として、各自がその場で1分間、身の安全を図る姿勢をとった。

団体別の参加表明者については、行政が624,954人、学校（小・中学校および高等学校）が373,527人であり、両方で全体の80.1%を占めた。前年度と比較して、行政は94%、学校は95%、企業は69%となっており、前年度に比べいずれも登録件数が減少した。

3. 参加者の感想

前年度までと同様に、令和5年度も参加者から「ふりかえりシート」を募集した。「ふりかえりシート」には参加者の感想が記入され、訓練時の写真が添えられ、これらはウェブページ上に掲載されている。「このような簡単な訓練ではあるが、大事なことであると思った」「自分でも自分を守ることがあったことに気づき行動できたことをうれしく思います」「いつ起きてもおかしくない災害に備えシェイクアウト訓練などを生かし、一人一人の防災意識を高めていきたい」といった感想が寄せられた。

4. 今後の課題

目標としていた100万人を達成したため、来年度からは県民総ぐるみの取り組みとして、学校・行政・企業等それぞれの団体ごとに効果的な方法で呼びかけを行う。

具体的には、学校に対しては、文書での案内に加えてメールでの周知を強化する。特に、これまでに一度も参加登録したことのない学校に対しては直接電話で参加を呼び掛けることを検討する。

行政に対しては、防災訓練の実施状況について聞き取り、参加登録できる訓練であれば登録するよう促す。

企業に対しては、実際に参加登録が行われるまで、丁寧なフォローを続ける。個人・家族、グループ、NPO等に対しては、X等のSNSを活用した参加登録の呼びかけを強化する。

今年度、個人の登録増加に効果があった、Yahoo!防災速報アプリによる訓練通知は、来年度も継続する。

7. AITカレッジ講座「地域防災研究センター講座」の開催

地域防災研究センター長 横田崇

愛知工業大学AITカレッジ講座は毎年開催されている市民向け講座である。地域防災研究センターは「地域防災研究センター講座」として毎年、春季、秋季とも2回ずつ開講し、センター教員が講義を担当している。AITカレッジ講座は有料であるが、本講座は社会的貢献事業としての性格が強いことから受講料無料として募集されている。以下に講座テーマと担当教員を示す。

【春季講座】

テーマ「自然災害と防災情報の今を知る」

最近毎年のように発生している風水害と地震・津波災害について、それらの発生メカニズムと被害の特徴について学びます。そして新たな防災情報と防災対策について説明し、被害を軽減するために各自が何をすべきかを考えます。

第1回 2024年5月18日（土）10時30分～12時

大矢徹 名古屋地方気象台防災管理官

第2回 2024年6月8日（土）10時30分～12時

横田崇 愛知工業大学地域防災研究センター長

【秋季講座】

テーマ「自然災害から生命を守るには - 防災・減災を考える -」

台風、豪雨、地震、津波、火山などによる自然災害から命を守るために何をすればよいのか。自然災害の発生メカニズムを説明し、災害を防ぎ、軽減するため、各自が何をすべきかについて学びます。

第1回 2024年11月16日（土）10時30分～12時

小鷹博之 名古屋地方気象台防災管理官

第2回 2025年1月11日（土）10時30分～12時

横田崇 愛知工業大学地域防災研究センター長



◆ S D G s 連

M01 自然災害と防災情報の今を知る 本山
キャンパス

申込期間：3月1日（金）～3月29日（金） 定員30名

講師 横田 崇 愛知工業大学 地域防災研究センター長
大矢 徹 名古屋地方気象台 防災管理官

最近、毎年のように発生している風水害と、地震・津波災害について、それらの発生メカニズムと被害の特徴について学びます。そして、新たな防災情報と防災対策について説明し、被害を軽減するために各自が何をすべきかを考えます。

■開講日/①5月18日（土） ②6月8日（土） 計2回
■時 間/10:30～12:00
■対 象/一般



◆ S D G s 連

M01 自然災害から生命を守るには - 防災・減災を考える - 本山
キャンパス

申込期間：9月1日（日）～9月30日（月） 定員40名

講師 横田 崇 愛知工業大学 地域防災研究センター長
小鷹 博之 名古屋地方気象台 防災管理官

台風、豪雨、地震、津波、火山などによる自然災害から命を守るために何をすればよいのか。自然災害の発生メカニズムを説明し、災害を防ぎ、軽減するため、各自が何をすべきかについて学びます。

■開講日/①11月16日（土） ②2025年1月11日（土） 計2回
■時 間/10:30～12:00 ■対 象/一般

図1 2024（令和6年）年度 AITカレッジ講座チラシ

8. 豊田市との連携

8-1. 豊田市地震対策事業者連絡会 第6回BCP作成セミナー

横田 崇

1. はじめに

企業の防災力の向上には、各企業におけるBCP（事業継続計画）の作成が不可欠である。しかし、中部経済連合会の2018年の調査によると、南海トラフの巨大地震への対応計画（事業継続計画：BCP）の策定率は、従業員数300人以上の大企業57%、300人未満の中企業17%、20人未満の小企業4%である。この数値を見てわかるとおり、中小企業においてBCPの策定率は、極めて低い。

企業の規模が大きくなると、支社や工場等が広域の複数の場所に立地することから、会社全体から見ると、被害も一部地域に止まることとなる。しかし、企業の規模が小さくなると、工場の立地している地域が被災すると、当該会社は、全部もしくは大半が被災することになる。即ち、会社の規模が小さくなればなるほど、BCPの策定が不可欠となるが、先に述べたとおり、中小企業におけるBCPの策定率が低いのが実情である。

このため、地域防災研究センターでは、2019年から豊田市と協働し、豊田市内にある企業のBCPの作成を支援するための「豊田市BCPセミナー」を開催することとした。本セミナーは、2024年で6回目のBCPセミナーとなる。

2. 令和6年度豊田市BCP作成セミナーの概要

セミナーは、豊田市地震対策事業者連絡会の会員の企業を対象とし、南海トラフの巨大地震に対応するBCP策定を目標に、各回2時間・年間4回で計画した。このセミナーの募集のチラシは、図1に示すとおりで、入門編と中級編の2コースとした。入門編は、主として、まだBCPを策定していない企業の方に、中級編は昨年度入門編を受講した企業の方と、既にBCPを作成している企業を対象として参加を呼びかけた。

セミナー資料は、「愛知県のBCPの作成コース」と「中小企業庁のBCPの作成コース」の「入門編」と「中級編」を参考としている。これらは、何れもそれぞれのホームページでWebで閲覧することができる。

セミナーでは、最も基礎的な事項として、防災マニュアルとBCPとは異なることを説明し、BCPの基本を理解した上で、従業員の命を守ることを第一とするには、会社外にいる際にも各人が安全を確保するために、従業員各人のLCP（生活継続計画）の作成が必要となることについても説明した。この点が、このBCPセミナーの特色である。

セミナーの進め方は、入門編については、BCPの基礎的な考え方等の講義と、各自が入門編としての基礎的なBCPを作成する実習との2部構成とした。BCPの作成そのものは各自が宿題として作成し、セミナーでは、作成してきたBCP等をもとにして、ワークショップ形式で議論し問題点等を抽出すると共に理解度を深めた。そして、問題点等については、宿題として修正し、次回のセミナーで議論した。中級編は、既にBCPを作成している企業を対象としていることから、BCPの基本的な考え方を基に、作成されているBCPの内容の拡充と基本的な事項の確認を行い、BCPを定着させるための訓練と点検・修正によりPDCAサイクルを定着させ、BCPの向上が図れるようになることに主眼をおいている。

実施日は下記のとおり。

- 第1回（総合技術研究所 視聴覚室）
 - ・入門編 2024年9月18日（水）10：00～12：00
 - ・中級編 2024年9月18日（水）14：00～16：00
- 第2回（総合技術研究所 視聴覚室）
 - ・入門編 2024年10月16日（水）10：00～12：00
 - ・中級編 2024年10月16日（水）14：00～16：00
- 第3回（総合技術研究所 視聴覚室）
 - ・入門編 2024年11月20日（水）10：00～12：00
 - ・中級編 2024年11月20日（水）14：00～16：00
- 第4回（総合技術研究所 視聴覚室）
 - ・入門編 2024年12月18日（水）10：00～12：00
 - ・中級編 2024年12月18日（水）14：00～16：00
- フォローアップ（総合技術研究所 視聴覚室またはzoom）
 - ・希望の各社30分づつ 2025年2月12日（水）10：00～16：00



WE LOVE TOYOTA
豊田市地震対策事業者連絡会会員向け！
即日加入できます

BCP作成セミナー
Business Continuity Plan

講師プロフィール **横田 崇**
豊田市地震対策事業者連絡会事務局 事務局次長
豊田市地震対策事業者連絡会事務局 事務局次長
豊田市地震対策事業者連絡会事務局 事務局次長

いつ起こってもおかしくない“南海トラフ地震”など大規模災害への備えとして、BCPの作成は急務です。このセミナーでは、BCPの必要性や、作成時の重要な視点を、セミナー形式で学ぶことができます。事業用としてやるべきことを整理し、数日と従業員の仕事安心の確保と、事業の継続について考えましょう！

4回連続講座

第1回	令和6年 9月18日(水)	第2回	令和6年 10月16日(水)
第3回	令和6年 11月20日(水)	第4回	令和6年 12月18日(水)

各回とも、**入門編 10:00～12:00** **中級編 14:00～16:00**

会場 豊田市、愛知工業大学 総合技術研究所 視聴覚室

申込方法 二次元コードから申込み
(申込連絡の番号は後述)
参加人数は、各社最大2名までです。

参加条件 ・会員登録（豊田市内の事業者限定）
※会員登録料は無料です。会員登録料は、申込時に申込みを完了して会員登録料をいただきます。

その他 ・市ホームページにも募集要項を掲載しています。

セミナーの内容

入門編 (全30分)	中級編 (全30分)
BCPの考え方や人・物・情報・金に関する必要最低限なBCPの作成と完成を指導。	作成済みのBCPを閲覧し、社内でのBCPの発動と訓練を実施し、BCPサイクルを回す。

豊田市地震対策事業者連絡会とは、
市と企業が連携し、地震対策に関する情報共有と対策の強化に向けた取組を進めていく会です。
平成15年に発足した26社が加盟しています。（令和6年4月1日現在）

申込先：豊田 総合センター（8時～17時）
豊田市地震対策事業者連絡会事務局（豊田市防災対策課内）
E-mail: bousai@city.toyota.aichi.jp TEL0565-34-6750 FAX0565-34-6048

8-2 令和6年度豊田市自主防災リーダー養成講座

横田 崇

■実施主体

主催：豊田市、豊田市自主防災会、愛知工業大学地域防災研究センター

■目的

地域で防災活動・啓発を推進するリーダーを養成する

■対象

令和4年～6年に豊田市自主防災リーダー養成講座受講者 対象200人

■実施日 令和6年9月7日（土）10:00～16:00

■実施場所 愛知工業大学八草キャンパス

■実施内容 （1）新洪水ハザードマップを使ったマイ・タイムライン作成講座

・講師：一般財団法人 河川情報センター 鮎川一史氏

（2）家具固定の演習

・講師：あいち防災リーダー会 相談役 早川澄男氏、水谷氏、藤井氏、伊藤氏

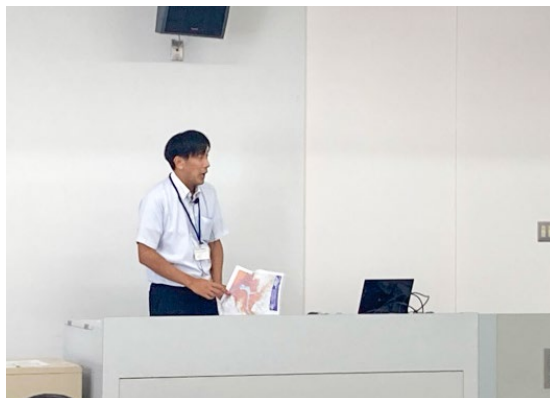
・補助員：各実施カリキュラムにおいて愛知工業大学学防ラボ学生14名

・受講者数：102名

（1）新洪水ハザードマップを使ったマイ・タイムライン作成について



愛知工業大学 横田教授あいさつ



河川情報センター 鮎川氏講座中



講座現場の様子および学防ラボの運営

(2) 家具固定の演習について



あいち防災リーダー会による家具固定の演習現場の様子
(学防ラボメンバー撮影)

8-3 令和6年度豊田市自主防災連絡協議会 事例発表会

8-4 豊田市内小中学校の学校防災教育

については3章-11の学防ラボの活動報告にて報告をする。

8-5 とよた消防フェスタ出展

奥川雅之

豊田市消防から出展依頼があり2025年1月11日（土）に豊田スタジアム（豊田市）にて開催された「とよた消防フェスタ」にて、レスキュークローラ操縦体験を実施した。

レスキュークローラ操縦体験は、当日来場した子供たちがレスキュークローラを操縦して、災害現場を模したジオラマフィールド内（1.8m×1.8m）で、怪我をした要救助者を模した人形の救助搬送の体験を通じて、災害発生時におけるロボット技術の活用事例を紹介するものである。図1に当日の様子を示す。当日は、レスキューロボット研究会の学生7名が、子どもたちにロボットの操縦方法やレスキューロボットの紹介を行った。イベント終了の14時過ぎまで行い、約200人の子どもたちがレスキュークローラの操縦を体験した。



図1：レスキュークローラ操縦体験の様子

8-6 とよた防災啓発推進協議会

黄 璐

1. はじめに

2018年度に設立された「とよた防災啓発推進会」は、市民や地域社会の防災・減災活動を活性化させるための啓発事業を推進している。これらの活動は、大規模な災害に対する備えを目的とする。愛知工業大学地域防災研究センターも、前年度に続き2024年度もこの協議会に協議委員として参加し、啓発事業の企画および実施をサポートした。この協議会の会合は、豊田市役所南庁舎の4階にある豊田市災害対策本部室で開かれ、PD研究員の黄璐氏が出席した。

第1回協議会：7月2日（火）16：00～17：00

第2回協議会：7月31日（水）16：00～17：00

第3回協議会：11月18日（月）16：00～17：00

イベント：親子で防災ネイチャーゲーム 2025年2月22日（土）10：00～15：00

豊田市自然観察の森

2. 啓発事業の概要

2024年度、「とよた防災啓発推進協議会」は、地域社会の安全と防災意識の向上に向けた四つの事業・活動を展開した。これらの事業・活動は、防災知識の普及と実践的な体験を通じて、地域住民の防災能力を高めることを目的とした。主な事業・活動は以下の通りである。

①市内大規模イベントの機会を捉えた啓発活動

幅広い世代の方に体験活動を通じて楽しみながら防災意識（自助意識）を高めることを目的として、ネイチャーゲーム×防災の日帰りDAYイベントを実施した。イベントで、防災クラフト、災害時トイレの体験、家具固定実験、非常食作り、ボードゲームなど様々な内容を含めて、各委員の強みを活かして子供達に豊富な体験を提供した。

②家具固定の啓発活動

地域の防災リーダーである「自主防災会連絡協議会」や地域防災を担う「消防団」、愛知工業大学、豊田高等専門学校などと連携し、昨年度に引き続き、大規模災害から節目の年となることから、家具固定の啓発活動を行った。

③メディアを活用する啓発活動

「ひまわりネットワーク」が保有するひまわりアプリを活用し、防災虎の巻や車中泊避難ハンドブックなどの紙媒体のパンフレットなどを新たにアプリで閲覧できるようにした。また「FMとよた」のラジオ番組や豊田市ダイズへの継続的な掲載など、様々な広報媒体を活用し、幅広い世代へ啓発を行った。

④能登半島地震の教訓を生かした防災対策

「社会福祉協議会」、「愛知ネット」「VC」など、被災地支援で得た災害への知識を生かし、ライフラインが停止した際の災害対応、特にトイレ対策について検証し、大規模災害への備えの重要性について啓発を行った。

8-7 豊田市防災学習センター秋の企画展に出展

豊田市防災学習センターにて、愛知工業大学地域防災研究センター×豊田市の取り組みのパネル展示を実施した。実施内容は下記の通り。

1 開催期間

令和6年11月1日（金）から11月30日（土）

8：30から16：30まで 月曜休館日（祝日は、開館）

2 場所

豊田市消防本部1階 豊田市防災学習センター（長興寺5丁目17-1）

3 展示啓発内容

- （1）機械学科の奥川雅之教授と豊田市消防本部の研究パネル
- （2）地域防災研究センターの学生防災研究会 学防ラボ×豊田市役所の防災学習（市内学校）のパネル
- （3）地域防災研究センターの紹介パネル
- （4）奥川研究室のロボット（現物）



写真 展示の様子

9. 地域防災研究センター見学会

本センター見学会では、地震防災・減災を中心とした講義や緊急地震速報のデモンストレーションなどを行っています。令和6年度の見学者数は、地域6組99名、高校生・保護者5組466名、他大学3組69名 合計614名の方にお越しいただきました。



写真1 中学生の見学の様子



写真2 民生委員の方たちの見学の様子

10. 「インスタント防災」の配信2024

小池則満・森田匡俊・加藤里美

災害に対する備えを、もっと気楽に、もっと簡単に行うための情報発信を目的として、名古屋市のスターキャット株式会社が公式YOUTUBEチャンネルSTARCATONLINEで「インスタント防災」を2020年度より配信中である。本年度は「その21」から「その32」までの12回分が配信された。本年度は、複数の組織や大学の出演もあり、多角的なコンテンツの配信がなされた。

その21「断層と戦国武将の関係!? 桶狭間の戦い」

(出演：愛知工業大学 小池則満)

公開日：2024年5月2日

桶狭間の戦いが猿投-高浜断層帯によって形成された地形と関連していることを、活断層図や現地写真を交えながら解説した。地震に関わる話題をいろんな角度から捉えてみていただければ、という意図で企画した。

その22「歩きながら知ろう！ 避難誘導標識」

(出演：愛知工業大学 小池則満)

公開日：2024年5月25日

避難誘導に関わるピクトグラムの紹介を行った。特に避難所の役割が、災害の種類ごとに分けられて表示されていることなどを解説した。



その23「ペット防災 第2回」

(出演：愛知工業大学 小池則満)

公開日：2024年7月1日

ペットの防災のあり方について紹介をした。ペットの生活環境への配慮、たとえばフトアゴヒゲトカゲのように温度管理の必要やペットへの対応について考えるよう、呼びかけた。また防災備蓄や迷子対策などについても述べた。



その24「新聞紙クッションを作ろう」

(出演：愛知工業大学 小池則満)

公開日：2024年8月16日

新聞紙をビニール袋につめこんでクッションをつくり、避難所生活を少しでも楽にしよう、という工作の回である。



その25「防災備蓄食レシピ“お好み焼き”」

（出演：愛知工業大学 SDGs推進チームの皆さん）

公開日：2024年10月13日

賞味期限が切れそうな防災備蓄食を美味しくいただくためのレシピの例として、お好み焼きを紹介し、実演を行った。愛知工業大学のSDGs推進チームの学生が企画、出演した。



その26「洪水ハザードマップの見方 初級編」

（出演：愛知県河川課 田中誠二）

公開日：2024年10月26日

洪水ハザードマップの概要、浸水深についての解説、こうした情報に基づいて避難経路や浸水が心配されるエリアを確認しておくこと、について述べられた。

その27「もしも駅で災害にあってしまったら」

（出演：愛知工業大学 小池則満）

公開日：2024年10月20日

名古屋市内の藤が丘駅から広域避難場所である明が丘公園まで歩きながら、帰宅困難時の対処方法について紹介した。よく使う交通機関と利用する駅から歩いてみることを勧めた。



その28「身近な川を知っておこう」

（出演：国土交通省庄内川河川事務所 濱坂大知）

公開日：2024年11月23日

河川の特性についての解説や、増水時に川の様子を見に行かずにライブカメラなどをみて情報を入手することなど、身近な河川を知っておくことの大切さについて解説された。

その29「防災備蓄食アレンジレシピ 出汁ご飯」

（出演：愛知工業大学 SDGs推進チーム）

公開日：2024年12月31日

賞味期限が切れそうな防災備蓄食を美味しくいただくためのレシピの例として、「その25」に続いて出汁ご飯を紹介し、実演を行った。愛知工業大学のSDGs推進チームの学生が企画、出演した。



その30「帰宅困難って何だろう」

（出演：岐阜聖徳学園大学 森田匡俊、森田ゼミの皆さん）

公開日：2025年1月29日

災害にあってしまい電車や道路などが使えなくなった場合の解説動画である。岐阜聖徳学園大学の森田匡俊准教授およびゼミ生が企画、出演した。



その31「帰宅困難に備えよう」

（出演：岐阜聖徳学園大学 森田匡俊、森田ゼミの皆さん）

公開日：2025年2月26日

帰宅困難になってしまう状況に備えて、持ち歩いておきたいものなどを紹介・解説した。岐阜聖徳学園大学の森田匡俊准教授およびゼミ生が企画、出演した。

その32「災害用伝言ダイヤルとグループ帰宅」

（出演：岐阜聖徳学園大学 森田匡俊、森田ゼミの皆さん）

公開日：2025年3月15日

家族の電話番号がわかるようにしておくこと、災害用伝言ダイヤルの活用、家族や自分の避難場所を確認しておくこと、グループ帰宅などより安全な方法での帰宅を考えることについて解説した。岐阜聖徳学園大学の森田匡俊准教授およびゼミ生が企画、出演した。



企画、制作、配信を継続していただいているスターキャット社の皆さんに、心より御礼申し上げます。
YouTube検索で“インスタント防災”+“スターキャット”で各回を見ることができる。

11. 2024年度 学生防災研究会「学防ラボ」の活動報告

渡邊啓太¹⁾・嶋根由佳²⁾・伊藤大真²⁾・具志堅蘭之介²⁾・七原紗良²⁾
・村瀬駿斗²⁾・河邊駿²⁾・木村悠人²⁾・春原颯太²⁾・横田崇³⁾

1) 学防ラボ学生代表 愛知工業大学学生 2) 愛知工業大学学生
3) 愛知工業大学地域防災研究センター長

1. はじめ

「学防ラボ」とは、地域防災研究センター所属の学生中心の団体として「学生が自ら考え防災力を高める」を目標にしています。地域の方々と連携しながら学内問わず多くの場所に出向き防災力向上に向けて活動を進める。かまどベンチ製作をきっかけに発足をした学防ラボは現在では「学生チャレンジプロジェクト」・「防災学習」・「勉強会（防災カフェ）」などの様々な活動を行っている。活動一覧を以下に示す。

表1 2024年度の活動一覧

活動区分	活動名
学生チャレンジプロジェクト	家具固定実験装置
	津波ボードゲーム
	工科展
豊田市連携	豊田市自主防災リーダー養成講座事前学習 (マイ・タイムライン講習)
	豊田市自主防災リーダー養成講座事前学習（家具固定）
	豊田市自主防災会連絡協議会事例発表会
	とよた消防フェスタ
	親子で防災ネイチャーゲームに挑戦
防災教育	豊田市立藤岡南中学校
	豊田市立井上小学校
	豊田市立冷田小学校
	瀬戸市立西陵小学校
	豊田市立浄水北小学校
	豊田市立巴ヶ丘小学校
	豊田市立根川小学校
	豊田市立高嶺小学校
	豊田市立東広瀬小学校
	瀬戸市立水野小学校

イベント出展	防災キャンプ岩津deあそ防災
	もしもFES名古屋
	天気とくらし～気象と災害パネル展～防災に関する教室
	SLOW ART MARKET
防災カフェ	地形・地質を知る街歩き
	津島まち歩き
	ファシリテーション講座
	自然災害
	なまずの学校
	トイレ講座
	建築のイロハ
学生大防災会議	学生大防災会議2025－つながる防災－

2. 学生チャレンジプロジェクト

学生チャレンジプロジェクトを用いて家具固定実験装置の改良また防災ボードゲームの製作を行いました。主な活動メンバーは以下の通り。

表2 チャレンジプロジェクト活動一覧

活動名	メンバー
家具固定実験装置製作	伊藤大真、具志堅蘭之介、村瀬駿斗、嶋根由佳、 渡邊啓太、七原紗良、中林蒼偉、廣田裕一郎、 春原颯太、木村悠人、河邊駿、大島千宙、ほか
防災ボードゲーム製作	
工科展 (2024/10/02・2024/10/03)	

2.1 家具固定実験装置の設計、製作について

今回は2台の家具固定実験装置の製作をした。組み立て式では容易に柱、壁、天井を分解できるようにするため柱をはめ合わせるようになっている。しかし、構造が複雑になり重量が大幅に増加してしまった。

改良型の特徴として前回製作した実験装置よりも簡素な作りになっている。理由として前作では筋交が設置されていたが筋交がなくても強度が十分あるため筋交なしで製作をしている。他にも木材同士を固定している金具も変更し寸法の精度と強度を高めることができた。改良型では感震ブレーカーに連動する埋込型のLED照明を設置しておりイベントの際に家具の固定だけでなく感震ブレーカーの実演もできるようになっている。



図1 組み立て式



図2 改良型

2.2 防災ボードゲーム

防災の知識や避難時の行動を楽しく体験できるように防災ボードゲームを制作した。今回制作した防災ボードゲームは津波から逃げることを想定したボードゲームで、津波が到着する前に避難所がある高台まで避難して生き残ることを目的とするすごろく形式のボードゲームとした。多くの方にテストプレイをしていただき試作品から、完成品10点の印刷依頼を行った。



図3 試作品の様子



図4 完成品

2.3 製作物の活用

製作物の展示を行い学内外の方に見ていただいた。学内では10月に行われた工科展にて展示を行った。学外では名古屋都市センターや豊田市防災ネイチャーゲームなどに展示を行った。詳細は「5. イベント出展」で記載する。

3. 豊田市連携

前年度に引き続き豊田市自主防災リーダー養成講座やそれに伴う事前学習、豊田市自主防災会連絡協議会の事例発表会に参加した。豊田市自主防災会連絡協議会表彰及び事例発表会では、「学防ラボ」の活動発表を行った。また、「4. 防災学習」の一部も豊田市と連携し、打ち合わせなどを重ねて実施した。

表3 豊田市連携活動一覧

活動名	参加者
豊田市自主防災リーダー養成講座事前学習 (マイ・タイムライン講習) (2024/08/08)	高藪駿 船津丸皓士 渡邊啓太 小松孝虎 伊藤大真 鈴木暖花 中林蒼偉 七原紗良 廣田裕一朗 嶋根由佳 村瀬駿斗 片岡凌寛
豊田市自主防災リーダー養成講座事前学習 (家具固定) (2024/09/03)	高藪駿 船津丸皓士 渡邊啓太 小松孝虎 伊藤大真 鈴木暖花 中林蒼偉 七原紗良 廣田裕一朗 嶋根由佳 村瀬駿斗 片岡凌寛
豊田市自主防災リーダー養成講座 (2024/09/07)	高藪駿 船津丸皓士 渡邊啓太 小松孝虎 伊藤大真 鈴木暖花 中林蒼偉 七原紗良 廣田裕一朗 嶋根由佳 村瀬駿斗 片岡凌寛
豊田市自主防災会連絡協議会 事例発表会 (2024/11/30)	渡邊啓太 岡田茉那
とよた消防フェスタ (2025/01/11)	木村悠人
親子で防災ネイチャーゲームに挑戦 (2025/02/22)	渡邊啓太 伊藤大真 河邊駿 古村琥刀 長坂元司

3.1 豊田市自主防災リーダー養成講座 事前学習 (家具固定及びマイ・タイムライン講習)

河川情報センターやあいち防災リーダー会及び豊田市、地域防災研究センターの皆さんとともに事前学習や打ち合わせを重ねた。事前学習では、マイ・タイムライン作成と地震の備えの講習、家具固定のための下地探し体験、L字金具取付体験、ガラス飛散防止フィルム貼り体験を行い、講座当日のメニューを体験した。また、講習には学防ラボメンバーではない学生も参加しており、周りの学生へ防災を伝えるきっかけとなった。

3.2 豊田市自主防災リーダー養成講座

愛知工業大学が会場となり、豊田市内の自主防災会員を中心に地域の方向けの講座が行われた。学防ラボは、河川情報センターによる「マイ・タイムライン作成に関するワークショップ」及びあいち防災リーダー会による「家具固定に関する演習」の補助員と司会として参加した。また、学防ラボが製作した家具固定実験装置を、家具固定に関する演習の際に利用した。直接地域の方と関わり、学防ラボの活動を知ってもらう機会となった。また、家具固定実験装置の活用もでき、地域の防災力向上に関わる機会となった。



図5 豊田市自主防災リーダー養成講座の様子

3.3 豊田市自主防災会連絡協議会 事例発表会

防災活動に関する表彰式と発表会が豊田市福祉センターで開催された。自主防災組織の取組等を共有し、地域防災活動の更なる促進につなげるために例年開催されている。学防ラボは、豊田市内で行ってきた防災学習や豊田市自主防災リーダー養成講座の話を中心に、これまでの活動を発表した。また、家具固定実験装置の実演及び家具固定のレベル化について発表を行った。



図6 事例発表会での発表の様子

3.4 とよた消防フェスタ

本年度も、豊田スタジアムにて、とよた消防フェスタが開催された。学防ラボは、運営補助を行い、参加者には、楽しみながら消防への理解と防火防災への関心を深めてもらった。私たちから防災を広めるだけでなく、防災に関して参加者の方々からご教授していただき、新しい観点や視点で防災について考え、知識を深める機会となった。



図7 とよた消防フェスタの当日の様子

3.5 親子で防災ネイチャーゲームに挑戦

本イベントに参加した来場者に対して、家具固定の重要性の説明を行った。その方法として、今年度作成した家具固定実験装置を用いて、家具を固定する前と固定した後での家具の揺れ具合、移動具合について、デモンストレーション形式で説明を行った。また、家具固定器具の正しい取り付け位置についても、説明を行った。さらに、家具固定方法を載せた冊子を配布し、家庭での家具固定の実施状況や家具の配置、物の整理整頓についての見直すことについて呼び掛けた。



図8 家具固定実験装置を用いた説明の様子

4. 学校防災教育活動

愛知工業大学では、地域の防災力向上のための活動の一つとして、2021年度より、学校防災教育活動を実施している。授業の実施によって、児童・生徒が防災をわがごととして考えること、そして授業で学んだことを友人や家族、さらには地域へ伝え広げる事を活動のねらいとしている。以下に概念図を示す。

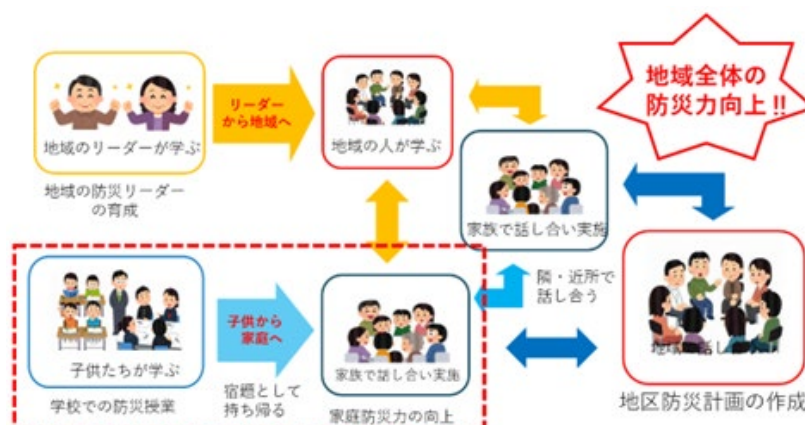


図9 地域の防災力向上における学校防災教育活動の位置づけ

今年度も、これまでの活動を継続し、防災学習の授業プログラムやスライド等の作成・修正に取り組み、小中学校で講師として授業を行った。また今年度は、豊田市だけでなく瀬戸市でも防災教育活動を広げることができた。更に、児童・保護者に対してアンケートを実施し、防災教育の効果について調査研究を行った。以下に2024年度の活動一覧を示す。

表4 2024年（令和6年）度学校防災教育活動一覧

対象	内容	参加者
豊田市立藤岡南中学校2年生 (2024/05/24)	地震編	船津丸皓士 池本笑菜 小泉奈子 森田貴羅 吉田和樹 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 横田崇 ²
豊田市立井上小学校5年生 (2024/06/21)	風水害編	船津丸皓士 池本笑菜 小泉奈子 深津脩生 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 横田崇 ²
豊田市立冷田小学校全学年 (2024/07/11)	地震編	高薮駿 船津丸皓士 小泉奈子 森田貴羅 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 松本博樹 ² 松原優子 ²
瀬戸市立西陵小学校5年生 (2024/09/05)	風水害編	船津丸皓士 池本笑菜 小泉奈子 深津脩生 森田貴羅 吉田和樹 渡邊啓太 伊藤大真 七原紗良 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 横田崇 ²
豊田市立浄水北小学校4年生 (2024/09/25)	地震編	池本笑菜 小泉奈子 深津脩生 堀江宗真 森来未 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 横田崇 ²
豊田市立巴ヶ丘小学校4年生 (2024/10/17)	風水害編	小泉奈子 森田貴羅 吉田和樹 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 黄璐 ²
豊田市立根川小学校5年生 (2024/11/13)	風水害編	船津丸皓士 池本笑菜 小泉奈子 深津脩生 渡邊啓太 岡田茉那 小松孝虎 伊藤大真 七原紗良 落合鋭充 ¹ 横田崇 ²
豊田市立高嶺小学校5年生 (2024/11/19)	風水害編	船津丸皓士 池本笑菜 小泉奈子 森田貴羅 深津脩生 吉田和樹 渡邊啓太 落合鋭充 ¹ 横田崇 ²
豊田市立東広瀬小学校5年生 (2024/12/09)	地震編	小泉奈子 深津脩生 渡邊啓太 七原紗良 落合鋭充 ¹
瀬戸市立水野小学校5年生 (2025/02/25)	風水害編	深津脩生 渡邊啓太 岡田茉那 日比野淳 皆瀬勇治 伊藤大真 七原紗良 落合鋭充 ¹ 黄璐 ² 横田崇 ²

※1：株式会社エーアイシステムサービス ※2：地域防災研究センター

4.1 出前講座の内容

2024年（令和6年）度は、豊田市及び瀬戸市における計10校の小中学校で、マイ・タイムライン作成を目的とした講座を行った。（以下、マイ・タイムライン作成出前講座という）

講座では初めに、マイ・タイムラインシート作成のために必要な知識となる、校区内の地形や危険箇所の説明、ハザードマップの見方、実際の災害の様子を解説し、防災・避難行動についてわがごととして捉えてもらう。続いて、これまで学んだ知識を生かしながら、それぞれ自分だけのマイ・タイムラインシートを作成する。

私たちの活動の大きな特徴としては、学校毎にその土地の状況に合わせた資料を用意することで、児童・生徒が防災をわがごととして捉えやすくすることである。また、2024年1月に発生した能登半島地震での被害の様子や、8月の南海トラフ地震臨時情報の発表など、その時々の特ピックに触れるなど、時期に合わせてタイムリーな内容になるように心掛けている。更に、学校によって対象となる学年も異なるため、対象学年に合わせた分かりやすい言葉遣いを心掛けている。



図10 授業の実施風景（根川小学校）



図11 授業で使用了スライド

さらに、今年度からは従来のマイ・タイムライン作成講座（風水害編）に加え、マイ・タイムライン作成講座（地震編）を実施した。マイ・タイムライン作成講座（地震編）では、日頃の備えと地震発生時に取るべき行動について考えることを目的として活動を行った。初めに、正しい家具固定の方法家具の配置、緊急地震速報や南海トラフ地震臨時情報について解説を行った。続いて、シェイクアウトの方法など、地震が起きたときに取るべき行動について考えることとした。

一方で、「作成するマイ・タイムラインシートに、説明の文字が多く分かりにくい」といった課題が挙げられたため、来年度以降、その内容について見直しや改善を図っていきたい。



図12 マイ・タイムライン（地震編）

4.2 調査

防災学習を実施した学校の児童・生徒やその保護者、教職員に対し、授業の効果を図るためにアンケートの協力を依頼し、調査を行った。アンケート内容としては、授業前後の防災意識の変化や家庭への防災行動に変化が見られたか、といったものである。その結果、授業後の防災意識の向上や家庭内への防災知識・行動の広がり、といった効果が認められた。今後は、家庭からさらに地域への広がりを見据えた授業を行っていきたい。

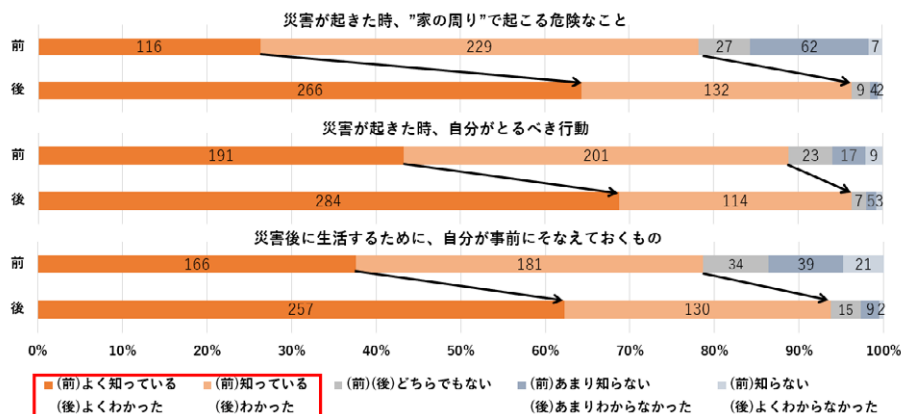


図13 児童の自然災害に対する知識の変化

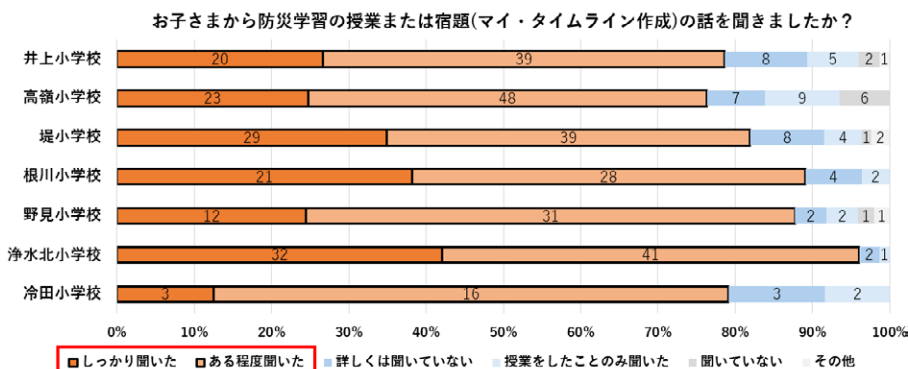


図14 児童から保護者への伝達

4.3 今後の展望（防災学習の展開）

学校防災教育活動の成果について、豊田市自主防災会連絡協議会事例発表会にて、報告を行った。今後も、豊田市や学校関係者、地域の方々と相談を重ねながら、学校防災教育活動がさらに効果的なものとなるように精進していきたい。

5. イベント出展

5月「もしもフェス」および11月「天気とくらし～気象と災害パネル展～」への出展では、家具固定実験装置や防災ボードゲーム、新聞紙でスリッパを作るクラフトの講座などを行い、来場された方に防災について楽しく学んでもらった。お子さんからご年配の方など幅広い年齢層の方に来ていただくことができ、来年度も同様に幅広い世代の多くの方に伝えていきたい。

表5 イベント出展一覧

活動名	メンバー
防災キャンプ岩津deあそ防災	伊藤大真・中林蒼偉・美濃輪直人
もしもFES名古屋	船津丸皓士・高薮駿・渡邊啓太・伊藤大真・中林蒼偉・村瀬駿斗・七原紗良・嶋根由佳・廣田裕一郎・清水皓太・小島大暉・永田知子・大鋸花乃・大島千宙・伊藤公亮・美濃輪直人・山岡深暖・安形茉衣・古村琥刀・富田ひかる
天気とくらし ～気象と災害パネル展～防災に 関する教室	伊藤大真・具志堅蘭之介・村瀬駿斗・七原紗良・中林蒼偉・大島千宙・小島大暉・山田結子・藤井香帆・鈴木よし乃・木村悠人・河邊駿・松原みなみ ^{※1} ・松原優子 ^{※2} ・松本博樹 ^{※2} ・横田崇 ^{※3} ・黄璐 ^{※3}
SLOW ART MARKET	渡邊啓太・木友孝裕・伊藤大真

※1：NPO法人プラス・アーツ ※2：認定NPO法人愛知ネット・愛知工業大学地域防災研究センター客員研究員
 ※3：地域防災研究センター



図15 イベント出展の様子か（もしもFES・天気とくらし～気象と災害パネル展～・SLOW ART MARKET）

6. 自主企画イベント

学生の学びの場である「防災カフェ」と、私たちの1年間の活動の総まとめの場となる、「学生大防災会議」といったイベントを地域防災研究センターのサポートを受け実施した。

表6 その他連携活動

活動名	メンバー
地形・地質を知る街歩き (2024/05/09)	講師：平川一臣氏（愛知工業大学地域防災研究センター 客員教授） 参加者：10名
津島まち歩き (2024/06/08)	講師：野澤英希氏（愛知工業大学工学部建築学科教授） 参加者：15名
ファシリテーション講座 (2024/06/13)	講師：松原優子氏（認定特定非営利活動法人愛知ネット） 参加者：13名
自然災害 (2024/08/08)	講師：山岡耕春氏（愛知工業大学地域防災研究センター客員教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授） 参加者：12名

防災 カ フ ェ	なまズの学校 (2024/10/13)	講師：松原優子氏（認定特定非営利活動法人愛知ネット） 参加者：9名
	防災トイレ製作講座 (2024/12/04)	講師：松原優子氏（認定特定非営利活動法人愛知ネット） 参加者：10名
	建築のイロハ (2025/01/08)	講師：福和伸夫氏（愛知工業大学地域防災研究センター 客員教授・ 名古屋大学 名誉教授） 参加者：18名
学防ラボのゼミ vol.2 (2024.11.04)		OB：前島・澤田・辻・松原・横井 参加者：5名
学生大防災会議2025 ーつながる防災ー (2025/03/14)		運営：村瀬駿斗・具志堅蘭之介・嶋根由佳・春原颯太・伊藤大真・ 七原紗良・渡邊啓太・富永千尋・廣田裕一郎・河邊駿・木村悠人・ 横田崇 ^{※1} ・倉橋有希 ^{※1} ・加藤邦枝 ^{※1} ・落合鋭充 ^{※2} ・松原優子 ^{※3} ・ 松本博樹 ^{※4} ・愛知工業大学名電高等学校 参加者：66名

※1：地域防災研究センター ※2：株式会社エーアイシステムサービス

※3：認定NPO法人愛知ネット・愛知工業大学地域防災研究センター客員研究員

※4：国土交通省中部地方整備局

6.1 防災カフェ

学防ラボメンバーの防災力向上を目指し、さまざまな先生をお招きして「防災カフェ」という勉強会を今年度も開催した。今年度は客員教授の平川先生をお呼びして愛工大周辺を歩いたり、福和伸夫先生をお呼びして名古屋の地形や災害の歴史について学んだりした。他にも客員研究員の松原優子さんをお呼びし「ナマズの学校」という防災ゲームをしたり、防災トイレ制作講座を開いたりして防災に関する勉強を行った。また、建築学科の野澤先生による津島市内の街歩きを行った。いずれも異なるテーマで防災を学んだ。



図16 津島まち歩き



図17 防災トイレ製作講座

6.2 学防ラボのゼミ vol.2

学防ラボに所属していたOBの先輩方に大学に出向いていただいて防災を仕事にするためにはというようなことについてグループディスカッションを行った。また、社会人となったOBの方々にいろいろな情報を教えていただいた。



図18 当日の様子（学防ラボのゼミ）



図19 本イベントのチラシ

6.3 学生大防災会議2025 ーつながる防災ー

先輩方から続けて開催されている「学生大防災会議」というハイブリット形式のイベントを企画・運営した。このイベントの第一部では学防ラボと名電高等学校の防災啓発活動の発表や今回は金沢工業大学、防災・減災プロジェクト（SoRA）の皆さんをお招きし、能登半島地震における災害復興ボランティア活動や普段の活動について発表した。第二部では先述した学生チャレンジプロジェクトで制作した津波避難ゲーム「決断の狭間」を実際に使用し、ワークショップを行った。



図20 当日の様子



図21 本イベントのチラシ

謝辞

落合鋭充さん、倉橋有希さん、加藤邦枝さん、黄璐さんをはじめとする地域防災センターの皆様、みらい工房の皆様、認定特定非営利活動法人愛知ネットの松原優子さん、国土交通省中部地方整備局の松本博樹さんには多大なるご支援とご指導を賜りました。更に防災カフェで講演していただいた方々、大変お世話になりました。ともに活動を進めてくださった皆様、すべての活動に関わっていただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

12. 令和6年度愛知工業大学防災士養成研修講座の開催

横田 崇

令和6年度は、年間で2回の研修講座を開催した。場所は、本学八草キャンパスと豊田市役所で実施をした。

受講対象者は、愛知工業大学学生・教職員、愛知工業大学名電高等学校生徒・教職員、豊田工業高等専門学校学生、日本赤十字豊田看護大学学生・教職員、愛知県立大学学生、豊田市の自主防災会所属者、愛知工業大学地域防災研究センター関係者である。

【2024年度の防災士養成研修講座の概要等】

第1回

日 時：令和6年9月28日（土）9時～18時30分、9月29日（日）9時～18時30分（2日間連続講座）

場 所：豊田市役所 東庁舎 7階

受講者：84名

第2回

日 時：令和6年11月30日（土）9時～18時30分、12月1日（日）9時～18時30分（2日間連続講座）

場 所：愛知工業大学 八草キャンパス1号館 5階 502講義室

受講者：109名

AIT 愛知工業大学
令和6年度第2回 防災士養成研修講座 受講生募集

防災士とは
「自然」「事故」「災害」を原則として、相乗の様々な場で防災力を高める活躍が期待され、そのための十分な知識と一定の知識・技能を駆使したことを、日本防災士機構が認定した人です。防災に関する知識と実践力を身につけ、地域の防災リーダーとして認められるほか、災害に備えスキルを磨き、安心・安全なまちづくりの担い手としての活躍の場が広がります。

内容 2日間連続講座+救急救命講習
防災士資格取得試験の受験資格を得るには、應修記録レポートに取組み提出いただく必要があります。

開催日時 2024年11月30日（土）・12月1日（日）9時～18時30分
救命救急講習：2024年10月5日（土）午前または午後

場所 愛知工業大学 八草キャンパス1号館5階 502

受講料 学生 15,000円
学生以外 25,000円
※教材費、印刷料、資料料を含む

応募対象者 愛知工業大学の学生・教職員・関係者
豊田プラットフォーム構成大学等の学生・教職員
愛知県立大学の学生・教職員
豊田市在住・在勤者

申込期間 2024年6月17日（月）～7月31日（水）

お申し込み h300 Webサイト、またはQRコードよりお申し込みください。
https://dprec.aitech.ac.jp/center/?page_id=99/49

問い合わせ 〇総合窓口 愛知工業大学 防災士養成研修講座事務局（愛知工業大学地域防災研究センター内）
E-mail: bousai@ait.ac.jp
TEL: 0565-48-8121（内線 2533）
〇豊田市政府の方の申込に関する問合せ先 豊田地域振興部 市民安全室 防災対策課 担当者：北村、中島
メール: bousai@city.toyota.aichi.jp
TEL: 0565-34-6750 FAX: 0565-34-6048

第2回募集チラシ



受講風景（第1回）

令和6年度 第2回 愛知工業大学 防災士養成研修講座 時間割

別紙1

場所：愛知工業大学八草キャンパス 1号館502号室（演習のみを1号館 2Fホール）

【1日目】2024年11月30日（土）

	時間	教科名	教本項目	講師
受付	9:00-9:15	受付		
開講式 オリエンテーション	9:15-9:30	開講挨拶：地域防災研究センター長 横田 崇		
1限	9:30-10:30	地震・津波への備え	第15講	愛知工業大学 社会基盤学科 准教授 倉橋 奨
10分休憩	10:30-10:40			
2限	10:40-11:40	気象災害・風水害	第2講	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授 田中 貴幸
10分休憩	11:40-11:50			
3限	11:50-12:50	自主防災活動と地区防災計画	第17講	豊田市地域振興部 市民安全室 防災対策課 主査 北村 厚
昼休憩（50分）	12:50-13:40			
4限（2時間） 会場：1号館2Fホール	13:40-15:40	【演習】避難所の設置と運営協力	第18講	認定特定非営利活動法人愛知ネット 主任 内藤 瑞
10分休憩	15:40-15:50			
5限	15:50-16:50	地域防災と多様性への配慮	第19講	認定特定非営利活動法人愛知ネット 松原 優子
10分休憩	16:50-17:00			
6限	17:00-18:00	被害想定・ハザードマップ	第6講（旧第7講）	愛知工業大学客員教授 名古屋大学名誉教授 福利 伸夫
		事務連絡		

【2日目】2024年12月1日（日）

	時間	教科名	教本項目	講師
受付	9:00-9:30			
1限	9:30-10:30	行政の災害対策と危機管理	第9講	愛知県防災安全局防災部 部長 岡田 晴道
10分休憩	10:30-10:40			
2限	10:40-11:40	風水害・土砂災害等への備え	第16講	愛知工業大学社会基盤学科教授 愛知工業大学地域防災研究センター長 横田 崇
10分休憩	11:40-11:50			
3限	11:50-12:50	災害関連情報と予報・警報	第7講（旧第6講）	豊田市・刈谷市・岡崎市気象アドバイザー 早川 和広
昼休憩（50分）	12:50-13:40			
4限	13:40-14:40	災害医療とこころのケア	第12講	日本赤十字豊田看護大学 災害看護学領域 講師 長尾 佳世子
10分休憩	14:40-14:50			
5限	14:50-15:50	近年の主な自然災害	補講1	日本赤十字豊田看護大学 災害看護学領域 講師 長尾 佳世子
10分休憩	15:50-16:00			
6限	16:00-17:00	防災士に期待される活動	第21講	NPO法人 愛知県防災士会 理事 大塚 正寿
修了式・試験準備	17:00-17:30			
試験	17:30-18:30			

第2回 時間割表

13. 令和6年度愛知工業大学防災士フォローアップ講座の開催

横田 崇

「防災士」には、地域や組織・企業等において防災・減災を推進するリーダーとしての活躍が期待されている。

このため、愛知工業大学地域防災研究センターでは、豊田市とで共同し、防災士を取得した方の次の活動へのステップアップを図るため「防災士フォローアップ講座」を開催することとした。

受講対象者は、愛知工業大学で「防災士」資格取得した人で、来年度は、防災活動を行う上で必要とされるスキルを向上させるための研修や最新の防災情報等の講義を行うほか、「防災士」の方が地域とが連携した啓発活動や防災活動を計画する予定である。

【2024年度の防災士フォローアップ講座の概要等】

日 時：令和7年3月4日（火）13時～15時

場 所：豊田市博物館 セミナールーム

受講者：32名

スケジュール： 司会：黄 璐 氏（地域防災研究センターPD研究員）

13：00～13：05 趣旨説明

13：05～13：55 今後の活動について

豊田市の出前講座の紹介

防災士をとったみんなで活動したいこと

①出前講座

②家具固定の推進（家具固定アンケート）

③自主防災リーダー養成講座

④その他

活動団体の名前をどうするか相談

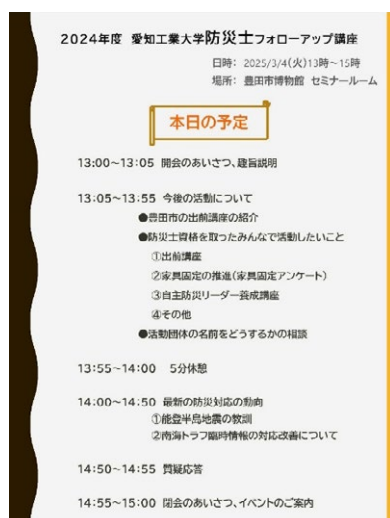
13：55～14：00 休憩

14：00～14：55 最新の防災対応の動向 講師：横田 崇 氏（地域防災研究センター長）

①能登半島地震の教訓

②南海トラフ臨時情報の対応改善について

15：00 閉会のあいさつ



フォローアップ講座案内



受講風景

各種実績一覧

■講演会等リスト

横田崇

- ・豊川市危険物安全講演会，南海トラフ巨大地震を迎え撃つ～能登半島地震を教訓として～，豊川市御津文化会館，2024年6月6日
- ・豊田市観光防災セミナー，観光客と観光地を災害から守るために，豊田博物館セミナールーム，2024年2月18日
- ・名古屋市防火管理者協議会講演会，南海トラフ巨大地震を迎え撃つ～能登半島地震を教訓として～，伏見ライフプラザ「鯉城ホール」，2024年10月24日
- ・春期AITカレッジ，地震から命を守るには～南海トラフ地震に備える～，愛知工業大学本山キャンパス，2024年5月28日
- ・秋期AITカレッジ，自然災害から命を守るには～防災・減災を考える～，愛知工業大学本山キャンパス，2025年1月11日
- ・災害情報学会春期全国大会シンポジウム，南海トラフ臨時情報成立の経緯，東京大学，2025年3月15日
- ・かすがいいいきアカデミー，日常が災害に変わるその瞬間までにできること，文化フォーラム春日井視聴覚ホール，2024年11月6日
- ・中部IE通常総会・記念講演会，「“最悪の被害想定”南海トラフ巨大地震」～個人と企業が～，名古屋国際会議場1号館4階141・142会議室，2024年5月21日
- ・函館地方気象台講演会，日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震とその備えについて，函館地方気象台，2025年1月17日
- ・中部経済同友会企業の防災力向上委員会講演会，企業における巨大地震対策の最前線～能登半島地震を踏まえ、今備えること～，名古屋東急ホテル3階錦，2025年2月14日
- ・愛知県看護協会三職能集会特別講演，自然災害から命を守る～能登半島地震の教訓を踏まえ～，ウインク愛知2階大ホール，2025年2月19日

平川一臣

- ・豊橋市防災危機管理課，令和6年度とよはし防災リーダー養成講座，「地震、津波・高潮、地盤災害を中心に防災リーダーとしての知識・意識」，2024年6月29日，豊橋あいプラザ
- ・北海道森林設計協会30周年記念大会「わたしが観てきた自然災害、調査・研究から」，2024年11月14日，かでの・札幌市
- ・北杜市主催減災フォーラム「今、私たちの家庭や地域で行うべき自然災害対策」，2025年2月9日，須玉ふれあい館ホール，山梨県北杜市

小池則満

- ・名古屋工業大学「緊急地震速報で命を守る」，2024年5月17日
- ・総合的な探求の時間，「緊急地震速報で命を守る」，名古屋経済大学高蔵高等学校，2024年6月20日
- ・土木学会出前講座，「緊急地震速報で命を守る」，愛知県立津島北高等学校，2024年6月28日
- ・先端科学技術入門，「避難について考える～防災まちづくりの視点から～」，愛知工業大学名電高等学校，2024年10月9日

- ・愛知工業大学地域防災研究センター20周年シンポジウム「地域の皆さんと防災を考える」，愛知工業大学，2024年10月25日

野澤英希

- ・岐阜市景観まちづくり講演会，「学生が地域に紡ぎだす新たな風と人とのつながり」，みんなの森ぎふメディアコスモスかんがえるスタジオ，2025年3月1日

奥川雅之

- ・令和6年度後期講座「大地震・津波に備える～被害を最小限にするために～」，「ロボット技術を活用した防災・減災」，名古屋市港生涯学習センター，2025年2月8日

石川慶一郎

- ・令和6年度愛媛地理学会講演会，「晩婚・非婚化時代の東京大都市圏の構造変化」，愛媛大学，2024年6月29日

松原優子

- ・令和6年度 第1回 愛知工業大学 防災士養成研修講座「地域防災と多様性への配慮」，2024年9月28日
- ・令和6年度 第2回 愛知工業大学 防災士養成研修講座「地域防災と多様性への配慮」，2024年11月30日
- ・学防ラボ出前講座 「防災食体験、クラフト紹介」，愛知工業大学，2024年4月11日
- ・防災カフェvol.5 「なまずの学校、リアルなまずの学校」，愛知工業大学，2024年10月23日
- ・防災カフェvol.6 「災害時のトイレ、防災食作り動画制作」，愛知工業大学，2024年12月4日

■TV出演・新聞記事リスト

横田崇

- ・名古屋テレビ，ドデスカ！，2024年8月9日
- ・中京テレビ，キャッチ！，2024年8月9日
- ・静岡新聞，提言減災「臨時情報「備え」要確認」，2024年6月23日
- ・静岡新聞，提言減災「臨時情報で対策点検を」，2024年11月10日
- ・静岡新聞，提言減災「「自助」、「共助」意識して」，2025年3月23日

奥川雅之

- ・災害対応ロボット30年阪神淡路大震災から始まった「東日本大震災に投入」，日刊工業新聞，2025年1月17日

学防ラボ

- ・FM AICHI 防災・減災スペシャル「EVENING STREET」2025年3月11日
- ・「学生らが活動報告」建設通信新聞 2025年3月24日

■各種委員

横田崇

- ・内閣府「相模トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動モデル検討に係るアドバイザー」
- ・内閣府「中部圏・近畿圏直下地震モデル検討会委員」
- ・内閣府「南海トラフ巨大地震モデル・被害推定手法検討会委員」
- ・内閣府「首都直下地震モデル・被害推定手法検討会委員」
- ・気象庁「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会委員及び東海地震強化地域判定会委員」
- ・愛知県「地震対策有識者懇談会委員」
- ・愛知県「愛知県南海トラフ地震被害予測調査検討委員会委員」
- ・三重県「三重県地震被害予測調査ワーキンググループ委員」
- ・豊田市「防災会議委員」
- ・豊田市「国民保護協議会委員」
- ・瀬戸市「防災会議委員」
- ・大府市「防災会議アドバイザー」
- ・国立研究開発法人海洋研究開発機構「海域地震火山部門アドバイザー」

入倉孝次郎

- ・内閣府相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動検討会委員

小池則満

- ・大学コンソーシアムせと 協議会長
- ・大府市都市計画審議会 会長
- ・矢作川水系流域委員会 委員
- ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター

中村吉男

- ・防衛省 東富士地区ダム技術検討委員会委員（2016.11～）
- ・浜松市廃棄物処理施設の構造に関する専門委員（土木工学）（2020.3～）
- ・地盤工学会中部支部支部長（2024.4～）

赤堀良介

- ・国土交通省中部地方整備局事業評価委員会 委員（2024～）
- ・土木学会水工学委員会環境水理部会 委員（2021～）
- ・国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所 土岐川庄内川流域委員会委員（2021～）
- ・国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 豊川水系流域委員会委員（2018～）
- ・国土交通省中部地方整備局水文観測品質照査検討会 委員（2017～）
- ・国土交通省中部地方整備局水文高度化検討会 委員（2015～）

武田美恵

- ・ 東海農政局農業農村整備等事業技術検討委員会委員
- ・ 愛知県環境審議会水質・地盤環境部会専門委員
- ・ 瀬戸市太陽光発電設備設置審議会委員
- ・ 岡崎市水循環推進協議会委員
- ・ 長久手市都市計画審議会委員
- ・ 日進市都市計画審議会委員
- ・ 日進市空家等対策協議会委員
- ・ 日本建築学会東海支部都市計画委員会幹事

野澤英希

- ・ 日本建築学会建築企画小委員会委員
- ・ 豊田市都市計画審議会委員
- ・ 豊田市建築審査会会長
- ・ 豊田市開発審査会委員
- ・ 日本建築学会東海支部設計計画委員会委員
- ・ 岡崎市入札参加者審査委員会に係る総合評価方式委員
- ・ 岡崎市開発審査会委員
- ・ 岐阜市景観アドバイザー
- ・ 豊田市特定空家等対策協議会委員
- ・ 岐阜市景観審議会委員
- ・ 刈谷市空家等対策協議会委員
- ・ 豊田市立地適正化計画策定委員
- ・ 名古屋市景観アドバイザー

奥川雅之

- ・ 日本機械学会2024年度機械力学・計測制御部門運営委員会委員
- ・ 日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会（A-TS10-40）」幹事
- ・ 日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会（A-TS10-39）」委員
- ・ World Robot Summit過酷環境チャレンジ競技検討委員
- ・ 一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー理事
- ・ レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
- ・ レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・ TPIPユーザーコミュニティ主査

倉橋奨

- ・ 公益社団法人土木学会 調査研究部門地震工学委員会 地震防災技術普及小委員会 委員
- ・ あいちシェイクアウト訓練実行委員会 委員

- ・内海山海防災連絡協議会 顧問
- ・大府市防災対策連絡会 委員

石川慶一郎

- ・犬山市史編さん委員会専門部会 調査執筆委員
- ・日本地理学会E-journal GEO編集専門委員会 編集委員

■外部資金獲得状況

横田崇

- ・河川情報センター，洪水関連情報の改善がもたらす社会的価値の定量化に関する研究（200万円），田中勝也，横田崇，赤石一英
- ・愛知工業大学プロジェクト研究A，「地震動到着直前の緊急対応と発災後の応急対応を支援する総合地震防システムの構築」，横田崇，倉橋奨，落合鋭充
- ・愛知工業大学プロジェクト研究B「土砂災害警戒区域における面的な降雨量データ取得による住民への適な防災情報発信の研究」に向けた多点設置可能な低コスト雨量計および観測システム開発の技術的検討」，横田崇，藤井聡，加藤桂太

小池則満

- ・小池則満，「観光資源化が進む地域鉄道の災害リスクを考慮した事業継続計画策定手法の開発」，1,000,000円，科学研究費助成事業・基盤研究C，2022年4月～2025年3月
- ・森田匡俊，小池則満，岡本耕平，大呂興平「観光客への津波避難情報の提供方法に関する研究」，100,000円，科学研究費助成事業・基盤研究C〔分担〕，2023年4月～2025年3月

赤堀良介

- ・赤堀良介・渡邊康玄・久加朋子・川村里実・伊藤隆郭，「掃流状態の流木挙動に関する力学的知見の確立と礫床河川の河道形成機構の再検討」¥4,550,000，科学研究費助成事業，基盤研究（B），2024-2027
- ・赤堀良介，「救助活動実務者に向けた水難事故要救助者の移動経路評価手法の提案」¥1,000,000，河川基金助成事業，2024
- ・椿涼太・戸田祐嗣・尾花まき子・赤堀良介・川村里実，「中小洪水時の礫河川のリーチスケール土砂動態の時系列変化の実測」¥2,210,000，科学研究費助成事業，基盤研究（B），2021-2024

山本義幸

- ・山本義幸，「景観評価の定量的客観化と社会的受容性：人工知能と感情次元を活用した新手法の開発」2,990千円，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C），2024-04-01 - 2027-03-31

奥川雅之

- ・瀬古繁喜・奥川雅之，「放射線散乱減衰を原理とした自動走査によるコンクリート欠陥の新規定量評価法の確立」2,500,000円，科学技術研究費助成事業，基盤研究（B），2023年4月～2026年3月

倉橋奨

- ・道家涼介（代表）・倉橋奨（分担者）,「時間スケールの異なるデータに基づくプレート沈み込み帯周辺ヒンジラインの成員解明」, 455万円, 科研費基盤（C）, 令和6-令和9

石川慶一郎

- ・石川慶一郎,「大都市圏都心地区における新住民の日常生活を支える労働者の職住関係」1,100,000円, 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援, 2022年4月～2025年3月

業績リスト

■論文（審査付）

横田 崇

- ・安本真也・荒木優弥・石橋真帆・作間敦・関谷直也・三宅真太郎・横田崇, 「2024年8月8日の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表は」, 日本災害情報学会誌, 2025

平川一臣

- ・平川一臣「南海トラフ起源津波堆積物の新記載とその意義」, 月刊地球特集号「歴史地震学×地震地質学－史料地震学と地形地質学の接点からさぐる古地震学のフロンティア」, Vol.47, No.2, 83-91 (2025.1)

小池則満

- ・小池則満, 尾崎茉名都, 川口暢子: 未被災の鉄道路線に対する災害復旧と鉄道事業継続に関する意識調査～名鉄蒲郡線を事例として～, 土木学会鉄道工学シンポジウム論文集, Vol.28, No.1, pp.25-33 (2024.7)
- ・小池則満, 竹中杏純, 富田求希, 川口暢子: 最寄り雨量観測による避難情報に対する住民意識調査－愛知県豊田市旭地区を対象として－, 第12回土砂災害に関するシンポジウム論文集, pp.245-250, 土木学会 (2024.9)
- ・橋本操, 小池則満, 佐藤野々花: 木曽川周辺地域における災害伝承と住民意識との関係-愛知県一宮市起地区・旭地区を事例に-, 土木学会論文集, Vol.80, No.24, 24-24009 (2024.12)
- ・中村栄治, 小池則満: 屋外での徒歩避難における群衆事故のシミュレーションによるリスクレベル推定の試み, 土木学会論文集, Vol.80, No.24, 24-24014 (2024.12)

赤堀良介

- ・赤堀良介, 渡邊康玄, 伊藤隆郭, 柴田隆之介, 杉原匡, 高原春登, 田川尊登: 屋外移動床実験における広葉樹由来の流木に関する掃流的な輸送過程についての検討, 土木学会論文集, 81巻, 16号, ISSN 2436-6021, <https://doi.org/10.2208/jscej.24-16057>, 2025.)

山本義幸

- ・林楓華, 山本義幸: 小規模データセットによる特定オブジェクトの色彩変換モデルパラメータの生成と特定, 土木学会論文集, 81 (22), (2025.3)
- ・松下孝星, 後久華穂, 山本義幸, 中村豪, 中村栄治: 地上型レーザスキャナを利用した鉄道空間の配置特性に着目した軌道中心推定, 土木学会論文集, 81 (22), (2025.3)
- ・Yoshiyuki Yamamoto: Deep learning-based detection of roadside vegetation: how vegetation indices boost performance, Intelligence, Informatics and Infrastructure, 5 (2) , pp.45-56 (2024.11)

武田美恵

- ・都心地下街のカフェにおける利用客層と利用行動特性に関する研究～名古屋市中区栄セントラルパーク地下街を対象として～. 武田美恵.日本インテリア学会論文報告集35号, pp.31-38, 2025年3月

中村栄治

- ・ 中村栄治, 小池則満：屋外での徒歩避難における群集事故のシミュレーションによるリスクレベル推定の試み, 土木学会論文集, Vol.80, No.24, 論文ID：24-24014, 2024. DOI <https://doi.org/10.2208/jscej.24-24014>

奥川雅之

- ・ A. Watanabe, T. Mitsuhashi, M. Okugawa, K. Ogane, T. Kimura, T. Kinugasa and Y. Ohtsubo, Ground Adaptability of Crawler Mobile Robots with Sub-Crawler Rotary Joint Compliance, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.36, No.3, pp.732-745 (2024.6) <https://doi.org/10.20965/jrm.2024.p0732>

■論文（審査なし、研究報告・紀要集）、その他（報告書など）

小池則満

- ・ 小池則満：馬場治左衛門たちがみた稲葉一鉄ゆかりの風景, pp.71-76, 馬場家研究報告2024 (2025.3)

奥川雅之

- ・ 奥川雅之, ロボット技術を活用した防災・災害対応, 危機管理レビュー, Vol.16, pp.37-47 (2025.3)

倉橋奨

- ・ 高藪駿, 倉橋奨, 横田崇：構造物健全性の即時判定手法の開発, 愛知工業大学研究報告, 第60号, 2025

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがある場合）

横田崇

- ・ 橋本徹夫・横田崇, 余震数と断層面積との関係, 日本地震学会秋期大会, 札幌, 2025年10月
- ・ 永門航・深井剛史・横田崇, 平常時の死亡との比較を通じた災害関連死の特徴分析, 日本災害情報学会秋期全国大会, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 2024年11月10日
- ・ 永門航・横田崇, 平常時の死亡との比較を通じた災害関連死の特徴分析, 日本災害医学会, 名古屋, 2025年3月8日
- ・ 石橋真帆・安本真也・荒木優弥・作間敦・三宅真太郎・関谷直也・横田崇, 誰がどこまでの対策を許容するのか -2024年8月8日発出の南海トラフ臨時情報を事例に-, 日本災害情報学会春期全国大会, 東京大学, 2025年3月15日
- ・ 渡邊啓太・小泉奈子・横田崇, 学校防災授業の効果とその課題, 日本災害情報学会春期全国大会, 東京大学, 2025年3月16日
- ・ 赤石一英・横田崇, 土砂災害警戒情報の有効性と課題：技術的限界を踏まえた提言, 日本災害情報学会春期全国大会, 東京大学, 2025年3月16日

入倉孝次郎

- ・ Kazuhiro Somei, Yujia Guo, Kunikazu Yoshida, Takashi Akazawa, Toshimitsu Nishimura, Ken Miyakoshi and Kojiro Irikura, Reproductions of Strong Ground Motions during the 2018 Northern Osaka Prefecture,

Japan, Earthquake Using the Empirical Green's Function Method, 8th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering, jgssp.v10.P2-22

平川一臣

- ・平川一臣「能登半島地震：数千年～1万年、10万年オーダーでの解説」、第二十四回中部歴史地震研究懇談会，2025年6月1日，名古屋大学減災館

小池則満

- ・伊藤滯，川口暢子，小池則満：河川敷の空間整備とごみ投棄行動の関係－庄内川・矢田川を対象として－，景観・デザイン研究発表会 No.20，pp.76-79，土木学会景観・デザイン委員会（2024.12）

赤堀良介

- ・赤堀良介：画像解析による構造物周辺での流木集積機構に関する検討，令和6年度土木学会全国大会，2024年9月5日，東北大学，2024.
- ・赤堀良介，飯塚悠太，稲島佑樹，林祐輝：矢作川中流域の水難事故を対象としたトレーサーの流下経路に関する検討，令和6年度土木学会中部支部研究発表会，2025年3月7日，富山県立大学，2025.

武田美恵

- ・復興公営住宅における生活環境の満足度とコモンスペースの利用実態に関する研究～福島県いわき市家ノ前団地・高萩団地・勿来酒井団地を事例として～，佐藤葵・武田美恵，日本建築学会東海支部研究報告集第63号，pp.473-476，2025年2月
- ・奄美大島における護岸整備によるウミガメの生態環境及び集落住民の避難意識変化に関する研究～鹿児島県奄美市笠利町佐仁・屋仁集落と大島郡龍郷町円集落を対象として～武田美恵，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp.39-40，2024年8月

奥川雅之

- ・奥川雅之，三輪昌史，川瀬修平，宮崎来翔，レスキューロボットコンテスト2024におけるデバイス管理，第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2024），pp.709-710（2024.12）
- ・三浦洋靖，渡邊彩夏，三浦貴彦，星野心，大谷和也，奥川雅之，低層大空間建屋火災における初動対応を想定した消防ロボットの開発，第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集6（SI2024），pp.3084-3089（2024.1）

石川慶一郎

- ・石川慶一郎・丸田あかり：松山市中心市街地における分譲マンション居住者の特性と移動経歴，日本地理学会発表要旨集，p.129（2025.3）
- ・森田匡俊・大呂興平・小池則満・石川慶一郎・服部亜由未・岡本耕平：沿岸観光地における宿泊施設の津波避難対策，日本地理学会発表要旨集，p.316（2025.3）

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがない場合）

倉橋奨

- ・高藪駿, 倉橋奨, 横田崇：建物振動記録を用いた逆重畳法による構造物の損傷, 令和6年度土木学会全国大会, CS10-10, 東北大学（2024年9月）

■著書

赤堀良介

（分担執筆）

- ・赤堀良介：例題1.19流れの中に放出される密度噴流, 例題1.20密度噴流の上昇限界, 例題1.21塩水くさび, 例題1.22内部跳水, 公益社団法人土木学会水工学委員会水理公式集例題集編集小委員会 委員長 泉典洋『水理公式集例題集（2024年版）』, 丸善出版株式会社, pp.76-86（2024.12）